



NPO法人日本ウミガメ協議会 事務局長 松宮 賢佑さん

◆まつみや けんすけ 愛知県の南知多ビーチランドで魚 類・アザラシ・ウミガメなどを担当し5年間勤務後、動物 系専門学校の専任講師などを経て平成27年に市内にある 日本ウミガメ協議会事務局に入局。高知県むろと廃校水族 館副館長なども兼務。招提元町在住。38歳。

砂浜は唯一の産卵場所なんです

6月から8月はボランテ

るアカウミガメにとって日本の

だ。「北太平洋に暮らしてい でも産卵するのがアカウミガ ミガメが生息する。このうち本

日本沿岸の海域には3種のウ

ミガ 歯を見せる。 たちも好きなんですよ」と白い を守るために汗をかいている人 ウミガメだけでなくウミガメ 八以上が集まり語り合う日本ウ 情報 調査や保全に携わる300 メ会議を開催している。 を取りまとめ、 年に1

連れられ頻繁に訪れた水族館 世界に魅了される。 ターン先の水族館でイルカシ たね」。 お兄さんになると言っていま 時には水族館でイルカショー ーに出てみたいと直訴した。 子どもの頃、 専門学校進学後、 旅好きの 「高校1年 両親に 0 ことにつながっていくんです」 がウミガメや海の生態系を守る を流している。 保護活動を支援できるんです」 夜間にウミガメの調査を続け汗 自身も毎年、 生態を知ってほしい。

働くという夢が実現。 とからスカウトされ、 立っていくその生き様にロマン 夜に近くの海岸で子ガメのふ化 て向き合った。「仕事終わ になったことでウミガメと初 異例ながらショーを手伝ったこ に遭遇しました。大海原へと旅 水族館 飼育担当 ŋ

けた。 中立的な立場で各地での調査 思いが募り退職。 ない枚方に本部があるからこそ 長から事務局長就任の誘いを受 の講師でもあった同協議会の会 立ち上げたりする中、 校で教鞭をとったり自然学校を き物をつなぐ仕事がしたいとの 飼育員の育成や子どもたちと生 も企画するうちに次世代を担う を感じるようになったんです_ 水族館での体験会やイベント 「どの海岸にも接して 動物系専門学 学生時代

など調査方法はさまざまだ。そ

認したり夜に見回りしたりする

体による海岸での産卵調査がピ

クを迎える。昼間に足跡を確

ィアで活動する各地の個人や団



「最高の休みやな!」

今月号の表紙写真は、星丘在住の原典 弘さん(43歳)が令和6年5月に山田 池公園で撮影。「ゴールデンウイークに家 族で山田池公園を訪れた際に、子どもた ちが汗だくになって走り回る姿がうれし く撮影しました。」

和歌山の海岸で

「まずはウミガ



自慢の写真・イラストが表紙に!?

枚方の風景などをテーマにした写真・イラストを 大募集。▶応募 メールまたは市ホームページの 専用フォームに住所・氏名(ペンネーム希望の場合 はペンネームも)・年齢・電話番号・メールアドレス、 作品の説明・題名を書いて作品データを添付し広

報プロモーション課(⊠kouhou@ city.hirakata.osaka.jp)へ。詳細 は市ホームページ参照。

※応募作品は市公式フェイスブッ クやインスタグラムで公開します。



まずはウミガメのことを知

つ

てほ

17

(वे

知ることが守ることにつながるん